

1. 題材名

「墨による表現」(全2時間) A表現(1)(3), B鑑賞, [共通事項]

2. 題材について

美術科においては、課題について生徒が主体的に考え、主題を生み出すことから学習が始まるので、まず生徒の主体性や意欲を引き出すことが不可欠である。本校美術科では生徒が課題に向かい作品を生み出す動機づけとなり、自由に発想することができ、なおかつ生徒の実態に合っている題材設定についてこれまで取り組んできた。つぎに大切なことは、主題を基に自由に発想し試行錯誤できるような仕掛けを用意することである。ここでは、生徒の発想力を高め、試行錯誤や創意工夫を繰り返しながら発想・構想の能力を育てるための工夫に取り組んで行くこととした。

発想を促すための手だてとして、これまで課題について様々な視点から見直したり、もう一度考えさせたりできるような学習を行ってきた。

さて、これまでとは別の方法で発想を引き出すために、ここでは墨を使って偶然できた形や獲得した技法から着想し、抽象的な表現をするという題材を設定した。

墨は、水墨画や書道などで目にすることがあり、書道を習っている生徒も多数いるが、けして身近な素材ではない。現代の生徒にとっては、墨は非日常的なモノであり、未知の素材である。また、墨は(厳密には、様々な色味を持つ墨が存在するのだが)黒一色であり、色によるイメージが制限される。そのような墨を使って自由に描き、そこでできた形や墨の濃淡などから発想し、イメージを膨らませて、さらに絵として表現するような学習を行う。

授業の展開としては、まず墨でどれだけの表現ができるのかいろいろと試みることから始める。次に、様々な表現方法を使って抽象表現をする。抽象表現は、生徒にとっては初めて取り組むことになるが、ここでは観念的な表現にならないよう、偶然できた表現も許容できるようにした。目に見えないものを視覚的に表すことの可能性に気付かせたいということもねらっている。墨の色、にじみ、かすれ、ぼけ・・・などから感じたことを言葉に置き換えて、そこからテーマを考える活動を通して、視覚と言葉の間を自由に行き来できるような美術の可能性にも気付かせたい。


4. 題材の目標

墨による抽象的な表現に関心をもち、墨によって偶然できた形や墨の特徴的な表現方法を基に、造形的な効果を生かし創造的に表現するとともに、他者の作品から作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り味わう。

5. 題材の評価規準

美術への関心・意欲・態度	発想や構想の能力	創造的な技能	鑑賞の能力
・墨で表現することに関心をもち、主体的に主題を生み出そうとしている。 ・材料や用具の特性などを主体的に生かし、表現方法を工夫して表現しようとしている。	・イメージを膨らませて主題を生み出している。 ・主題などを基に想像力を働かせ、形や墨の効果を生かして、創造的な構成を工夫し、心豊かな表現の構想を練っている。	・材料や用具の特性を生かし、表したいイメージをもちながら自分の表現意図に合う新たな表現方法を工夫するなどして創造的に表現している。	形や墨などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。
Aと評価するキーワードの例 継続的に意欲をもちながら	Aと評価するキーワードの例 独創的な	Aと評価するキーワードの例 効果的に	Aと評価するキーワードの例 広い視点から根拠を明確にして

6. 指導の計画 (全2時間)

次	○学習内容	・「深く考える」ための手立て, など
1次 (1時間)	<input type="checkbox"/> 墨でどのような表現ができるの, 様々な技法を試す。 <input type="checkbox"/> 学習の内容とねらいの確認 ・ 墨を使った表現であること <input type="checkbox"/> 班 (4人グループ) ごと, 硯で墨を擦る。(墨汁で補う) <input type="checkbox"/> 何段階かの濃さに墨を分ける。 <input type="checkbox"/> 墨でどんな表現ができるか, 各自が用紙 (カード) に描いてみる。 <input type="checkbox"/> さまざまな技法を試し, 「表現のサンプル」カードを蓄える。 ・ グループ内で, カードを共有してもよい。  <input type="checkbox"/> 次回の授業の見通しをもつ	<p>さまざまな表現を試みる。 試したことを「サンプルカード」として残す 次回の授業で生かすように意識させる。</p> 
2次 (1時間)	<input type="checkbox"/> 前回試した方法などをきっかけに描く <input type="checkbox"/> 一つの技法だけでなく, 様々に組み合わせてイメージを広げる。 <input type="checkbox"/> 作品に題名を付ける。 <input type="checkbox"/> 友達が描いた作品について, 互いに鑑賞する。 <input type="checkbox"/> ワークシートにより振り返る。	<p>「サンプルカード」から, 主題を発想する。 さまざまな技法を複合的に生かせるようにする。</p>

## 7. 育てたい「4つの力」

その授業や学習の場面で, どのような力を発揮したらよいのかを生徒に分かりやすく示す。

つくるとき		見るとき	
自分の気持や意志を大切にしながら主体的に取り組もう!	感じたこと, 思いついたこと, 考えたことを基に試行錯誤して, よりよいものを目指そう!	いろいろ工夫し, 最もふさわしいと思う方法で表現しよう!	いろいろな視点から, より広く, より深く感じ取り味わおう!

## 8. 参考文献

- ・ 文部科学省「中学校学習指導要領解説 美術編」(平成 20 年 7 月)
- ・ 国立教育政策研究所教育課程研究センター「評価規準の作成, 評価方法等の工夫改善のための参考資料 (中学校 美術)」(平成 23 年 11 月)